

C—70 被服工作洋裁指導法の研究（第1報）
—衿の構成原理より応用へ—

仙台白百合短大 田山 仁子
○鈴木 良子

1. 短大の被服学のうち洋裁に於ける被服構成並びに実習は、短時間のうちに構成理論、デザイン表現、技術（方法）を理解させねばならない現状にある。本学に於ても種々研究を続けて来たが、第1報としてカラーについて報告する。

2. 衿の基本型として衿幅と衿丈による矩形を作り、ショールカラーとし、衿腰：衿幅の関係を見出す。

a) 衿丈：装飾線の変化により、衿腰：衿幅の関係を知る。

b) フラットカラー及びテラーカラーへの発展を知る。

c) 曲線（身頃の衿ぐり）と直線（カラーの衿付や線）の関係による感じの変化をみる。

3. デザイン表現という応用の面で以上の基礎理論が活かされ、スタイル画を見て直ちに製図がひける技術的な理解も容易になる事を確信するものである。